

「学びに向かう力」の育成～「主体的な学び」へ導く学習指導の工夫～

平成30年度 大津町小中学校共通実践事項

(1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示 (3)家庭学習の習慣

6月13日(水)

岡本

詩「ねがいごと」の教材研究と授業構想

6月6日後藤健征先生より、詩「ねがいごと」のミニ学習会を行っていただきました。

と ば し ま す	わ た げ を	き よ う も	・ ・ ・	あ い た く て	あ い た く て	あ い た く て	あ い た く て	ね が い ご と
								た ん ぼ ぼ
								は る か
⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	

起承転結の「転」は⑤か⑥か？

先生方だったら、「転」は⑤と⑥のどちらにしますか？そのわけは何ですか？

★⑤だという読みの理由

- (1)「あいたくて」のリフレインがなくなっている。間があく。
- (2)「・・・」は、文字ではなく、記号である。表現の変化。
- (3)「・・・」は、1字下げしてある。形式の変化。
- (4)①～④と⑥～⑧は対応している。理由と行動。「あえない」という否定？
- (5)⑥以降はひとつつながり（一文）である。変化があるとしたら⑤だ。

★⑥もしくは、⑥⑦⑧という読みの理由

- (1)⑤は「あいたくて」の省略である。あるいは、「あいたくて」の継続。意味を考えると⑤での変化はない。
- (2)「あいたくて」は「想い」。⑥以降は「行動」へと変化している。

(こちらの意見は、ちょっと弱い??他にもあるかな??)

「構造読み」で大切なことは、複数の意見が提出されることです。以上の意見をまとめると、「ねがいごと」は⑤と⑥にかけてもっとも変化します。⑤から⑥が一番盛り上がる「構造」をもっていると確認ができれば良いですね。

この構造をもとにしながら、「技法読み」「主題読み」へと続きます…(^)

この詩は…

誰が、誰に、「あいたい」のでしょうか？
「ねがいごと」とはどんなものなのでしょうか？

こちらに、学習会に参加した先生方の感想を載せます。ぜひご覧ください。

木村先生より…

詩にも「起・承・転・結」があるということを知りました。僕は、「・・・」が沈黙で、転は⑤だと思いました。また、後藤先生の言葉より、「たんぽぽ」は、根がしっかりと地に張られていて、深く長く伸びている。…ということはその場から動けない。「子どもたちがこのことを知っているか否かが、詩の読みに関わってくる」ということを学びました。語句の意味を知る活動も大切にして学習指導を行っていきたくと改めて思いました。ありがとうございました。

松本先生より…

想像を広げながら、文章をじっくり読むことは面白いと実感できるような授業構想だと感じました。隠された技法を次々と周りの人と一緒に発見していくところは本当に面白かったです。自由に考えさせる一方で、起承転結の「転」はどこなのか、「・・・」の意味は繰り返すと余韻のどちらを表しているのか、など自分の立場を決めるような活動も入れていたところも是非、まねしたいと思いました。

富永先生より…

「詩」の奥深さを感じました。教材研究をする際に、教師側がどういう視点をもって教材研究をしていくかで子どもたちにつけさせたい力がより明確になってくるのだと改めて感じました。詩の授業が楽しみになりました。

岡本より…

「表層読み」「構造読み」「技法読み」それぞれの詩の読み方について学ぶことができました。教師が範読する際に、どの部分を意識して読むかが児童にも伝わり、その後の学習にも繋がっていくということを聞き、改めて範読の大切さを感じたところです。単元の最後に、子どもたちが詩を作る活動を設定すると、学びの広がりも感じられ、詩の楽しさをさらに味わうことができるなあと思いました。次回の詩の授業が楽しみになりました。ありがとうございました。

今回学習会をしていただいた、後藤健征先生より…

先生今回紹介した学習方法は「科学的読みの授業研究会」という団体で実践されているものです。後藤は、この方法をもとにして、子どもたちの実態にあった学習活動や指導言を考えています。詩の読み方の他に、物語や説明的文章の読み方もあります。「教材研究をみんなのものに」という思いで今後も続けていきたいと思えます。